

〔学 会〕

東京女子医科大学学会 第36回総会

一般演説の追加・質問・応答要旨

昭和 45 年 9 月 27 日 (日)

東京女子医科大学本部講堂

(総会演説の抄録は本誌40巻7号に掲載した)

2. 臨床材料から検出されたブドウ球菌の諸性状と病
因性について

(中検・細菌部)長田 富香・他

質問 吉岡守正(微生物) 多剤耐性菌の検出頻度ならびに *Staphylococcus aureus* と *Staphylococcus epidermidis* の間に多剤耐性菌数の差がありますか。

応答 長田富香(中検) 時間の関係でそこまでできませんでしたが、今後は是非検討してみたいと思っております。

4. 脊椎動物網膜活動電位についての観察

(第二生理)佐々木 優

質問 渡辺宏助(第一生理) E R Gの各波に対して Alcohol, Na-azide, KCl etc の薬物を通つて各 componentが大になつたり小になつたりするというのは危険ではないか。E R Gは符号の異なる components が summateしたものだから、特にある Component を選択的に enhance することを決めるのは困難なはず。

応答 佐々木優(第二生理) このような実験からだけではある特定の薬物なり物質なりが特定の component を抑える(あるいは増強する)ということを決めるのは困難だと思います。ある component を実際に抑えるのかも知れないし、それと逆方向の component を増強させる結果かも知れない、また、その両方かも知れません。これを決めるには他の実験事実、あるいは他領域の知識も用いて推論せねばならないと思います。

7. 輸血後血清肝炎における免疫グロブリンについて

(第二病院・外科)阿部 泰恒・他

質問 吉岡守正(微生物) 1) 血清肝炎と流行性肝炎以外の肝疾患における IgM の経過はどうですか。

2) IgM の値は血清肝炎と流行性肝炎において有意に高いとお考えですか。

応答 阿部泰恒(第二病院・外科) 1) 流行性肝炎および血清肝炎においては、IgM が発症時、選択的に上昇する。他の一般的肝炎については他の IgG, IgA の変動がみられる症例が少なく、比較はまだ不十分だ。

2) いわゆる Virus 性肝炎においては、IgM が選択的に上昇を認めると言える。

8. 尿中線溶活性物質についての実験的研究

(中検・血液部)中村恵美子・他

質問 河野南雄(泌尿器科) 1) 腎の灌流はされていますか。

2) 組織 Activator を論ずるには灌流したものについてみた方がと考えましたので。

応答 中村恵美子(中検・血液部) 1) 灌流は致しておりませんが、組織 Activator を得るには充分に蒸留水で血液を洗い流して行なつています。

2) 灌流の操作は組織の切片のため技術的に困難と思いますが、またご教示戴きたいと思ひます。

応答 小山千代(三神内科) 私共の実験成績は、確かに他の研究者のそれと反対の成績を得ています。剖検例では、左右いずれかの腎のせいぜい1/2量しか貰えず、腎全部をそのままいただく事は不可能なので、灌流を行なつてすることは無理です。したがつて中村先生の回答のごとく処置を行ない実験したわけですが、動物実験と異なり、灌流を行なつてすることは上述のごとき理由から困難と思われませんが、今後何らかの機会に灌流を行ない得ることができましたらやつてみようと考えています。

12. Micturition syncope の1例

(脳神経外科)仙頭 茂・他

質問:河野南雄(泌尿器科) 1) 泌尿器科医として興味ある事は、先生の症例の発作が尿を強く我慢した時